

小学校第5・6学年道徳学習指導案

平成28年6月30日（木） 第5校時

児童 5年 2名 6年 4名

授業者 永橋 貴恵

1 主題名

正しいと思ったことを 公正、公平、社会正義 小学校 高 C (13)

2 ねらいと教材

(1) ねらい

誰に対しても差別や偏見をもつことなく、公正、公平に接し、正義を実現に努める態度を育てる。

(2) 教材名

「名前のない手紙」 (新 生きる力 5年 日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

一人ひとりが、自分の考えや思いを持っていても、つい周りの行動や言動に流され、公正、公平でない集団意識に進んでいくことがある。そんな時一人でも公正、公平な態度で行動することにより、周りが公正、公平な態度を取り戻していくこともある。自分の正しいと思うことを積極的にすすめて正義を実現しようとするのが大切である。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、小集団の中で小さいころからの仲間として日々過ごしてきている。その中では、一人ひとりが自分の考えや思いを素直に伝えることはできる。しかし一見仲良く楽しそうに遊んでいるが、集団への影響力の強い子どもがルール違反をした際率直に注意し合っているか課題はある。また子ども同士立場の平等性を考えた時、弱い立場の友だちへの批判的な行動も見られる。

今年度の研究主題は「自己を鍛え学び合う力を育てる～対話の生まれる道徳の授業づくり～」とし、各教科の活動でも複式の授業形態の特徴でもある「ひとり学び」(主体的な学び)、「とも学び」(協働的な学び)を通して、児童同士の対話の場を意識して設定している。授業の終末には振り返りの場面を設定し内省する時間とする。今年度から「心のノート」を準備し全校で取り組んでいる。このように自己を見つめる活動を通し自己の変容に気づき(メタ認知)友だちの考えを共有し自分の考えと比較しながら対話できる児童を目指していきたい。友達の考えを共有することは違いを認める態度にもつながり、他者を排除せず共存する集団へと高まることを期待している。

(3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本教材は、クラスのリーダー的な存在である児童の一言が、クラスの仲間が「わたし」をのけ者にしてしまう。悪いことだとわかっているが、集団としてなかなか嫌な雰囲気から抜け出せないでいたが、一人の正義ある行動からもとのクラスに戻っていく。

授業の前半では、のけ者にされても何も言えない「わたし」苦しさ不安をとらえる。次に「なぜ名前を書かなかったのか」という発問から児童の生活体験に基づく多様な価値を引き出す。この場면을対話の生まれる場面と押さえ意図的に揺さぶり・評価を仕組む。授業後半では転校するといってもクラス全員の前で仲間はずれにしたことを反省した吉野さんの心の変化をとらえ、自分ならどうするか考えさせる。その際「心のノート」を活用し、授業後の評価の視点とする。

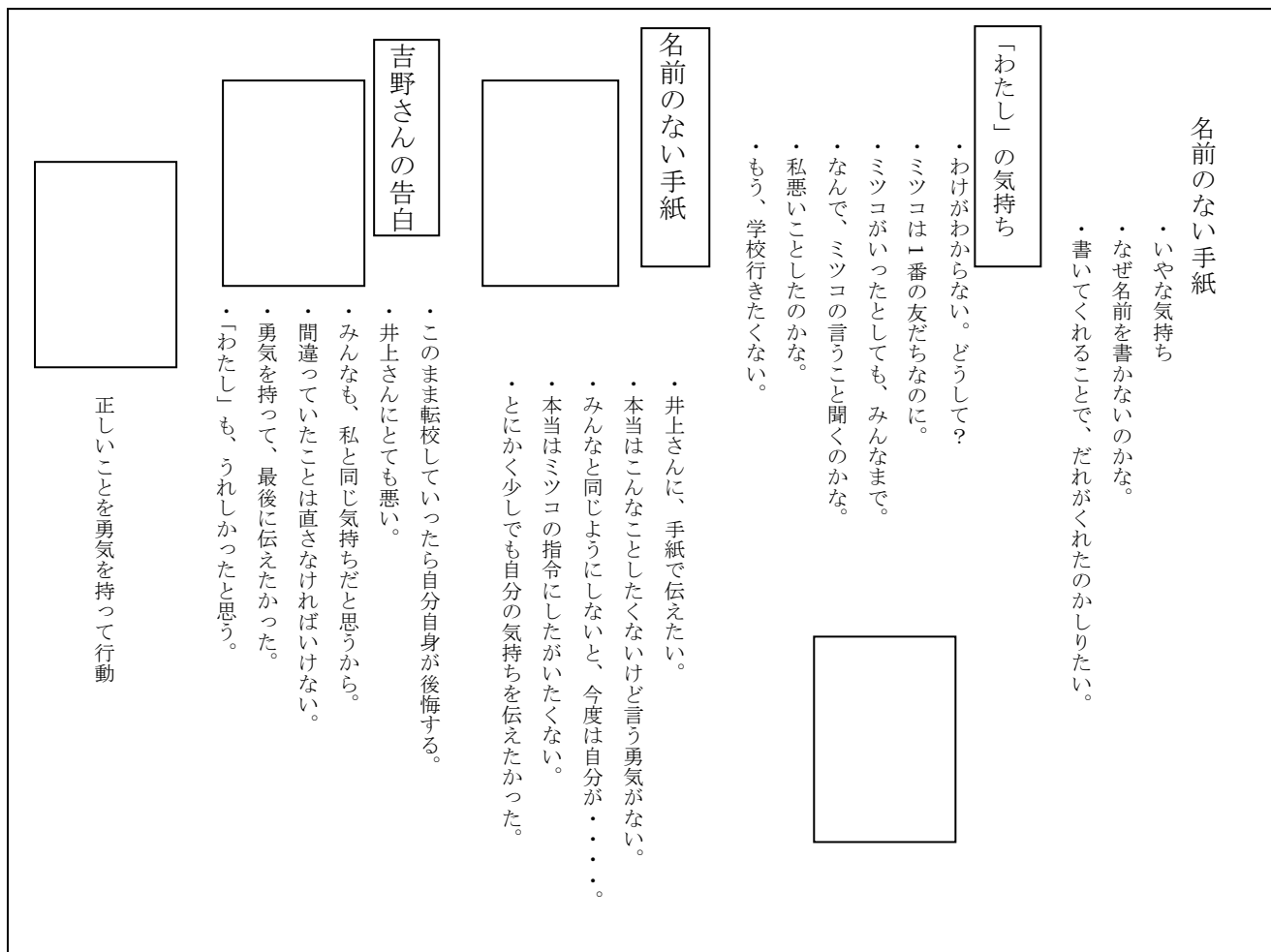
児童がこの教材を学ぶことにより、中学生になった時、違った環境でのなかでも、一人ひとりが自分の考えに責任を持ち、勇気ある言動(行動)ができ、人を思いやる心を高めていき集団や社会における「正義」を実現しようとする態度を養っていきたい。

4 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	○指導上の留意点・◆評価(方法)
導入	(1) 「名前のない手紙」をもらったイメージをずる。	①もし、人から「名前のない手紙をもらった」どんな気持ちになりますか。 ・嫌な気持ち。 ・なぜ名前書かないのかな。 ・書いていることで、だれがくれたのか知りたい。	○「名前のない手紙」をもらったなら、いやな気持ちになることを押さえさせる。
展開	(2) 資料 「名前のない手紙」読んで話し合う。 ひとりぼっちになった「わたし」 価値の交流場面＝対話 名前のない手紙 みんなの前で仲間はずれにしたことを謝る吉野さん	②「井上さんとは、仲よしちゃいけないって、杉田さんから、みんなに指令が出たの」ということを知った時、「わたし」はどんな気持ちになったろう。 ・わけがわからない。どうして？ ・ミッコは1番の仲良しなのにどうして？ ・ミッコが言ったとしても、みんなが口をきいてくれてもいいじゃないか。 ・なんで、ミッコの言うことを聞くのかな。 ・私悪いことしたのかな。 もう、学校行きたくない！ ③手紙に名前を書かなかったのはどうしてだろう？ ・井上さんに、手紙でも伝えたい。 ・本当はこんなことしたくないけど言う勇気がない。 ・みんなと同じにしないと、今度は自分が……。 ・本当はミッコの指令にしたがいたくない！ ・とにかく少しでも自分の気持ちを伝えなかったから。 ④転校する日、吉野さんがみんなの前で、仲間はずれのことを言ったことについて、みんなはどう思いましたか。 ・そのまま転校していったら自分自身が後悔する。 ・井上さんにとっても悪い。 ・井上さんに謝りたい。 ・みんなも、私と同じ気持ちだと思うから。 ・間違っていたことは、直さなければいけない。 ・勇気を持って、最後に伝えなかった。 ・「わたし」も、うれしかったと思う。	○仲間はずれにされたつらい気持ちを押さえる。 ○クラスメイトやミッコに仲間はずれにされても、何も言えない「わたし」を押さえる。 ○「わたし」を助けてあげたい、自分自身も守りたいという2つの気持ちから「名前のない手紙」を書くしかなかった気持ちに気づかせる。 ◆自分の生活体験と重ねて発言できる。(発言) ○公正公平な態度で正義ある行動ができたことに吉野さんのはっきりとした言い方に気持ちを押さえさせる。 ○転校する日にみんなの前でいった、吉野さんの心の変化をしっかり捉えさせる。 ◆「心のノート」に吉野さんの心の変化をとらえ自分ならどうするか考えを表現している。(「心のノート」)
終末	(4) 本時の学習を振り返る。 (5) 教師の話聞く。	○正しいことを勇気を持って行動できたことや、まわりの友だちの勇気ある行動に気づいた時、どんな気持ちでしたか。「心のノート」に書きましょう。「マララさんについて」	○自分自身の経験を振り返りながらまとめ。 ○「マララさんについて」について繋げる。

準備物 場面絵 「心のノート」(自校) マララさんの写真

板書計画



5 評価

正しい判断を自分でし、いやだと思ふ気持ちを伝えるようにする。(発言・心のノート)

6 他の教育活動との関連

